

大学院 経済学研究科

理論経済学・経済史・経済政策

グローバル経済の理論的・実証的総合分析を目指す



高度の専門的知識と能力を持った研究者の養成

経済学研究科での教育研究活動の主たる目的は、高度の専門的知識と能力を持った研究者の養成にあります。また、研究科全体での高い研究水準を維持していくためには、内外の有力な研究者との交流を通じた切磋琢磨が、教員・院生にとって

不可欠であることは、言うまでもありません。広く世界の研究水準を知り、それと議論を戦わせるはじめて研究の実を上げることができるといいます。また、経済学研究科は、経済のグローバル化、情報化など、時代状況および課題認識の大きな変化を踏まえ、前期課程(修士課程)、後期課程(博士課程)とも、半世紀に及んだ従来の2専攻を1専攻(現代経済専攻)に再編・統合することを予定しています。

大学院生・修了者の活躍

経済学研究科の大学院生は、まさに多士済々です。この10年間ほどの間でも約40名が大学・研究機関に職を得ています。また、各国からの留学生が多数研究に励んでいます。さらに、全国的に見ても早い時期から、社会人入学(実年大学院)制度をとり入れ、そのなかには、博士課程に進学し、大学教員になられた方もおられます。大学院での教育は指導教員による論文作成指導が基本となりますが、経済学研究科ではその上に、大学院生が他の多くの教員と学問的交流を図れるよう、配慮しています。

